

+アジア女性資料センター『女たちの21世紀』より転載

「靱井会長NO! とりもどせ、NHKを視聴者の手に」(2016/10/4)を顧みて 小林緑

衆議院議員会館で行なわれた標記集会のリレートークに加わる羽目になったのは、私が2001年から2007年の2期6年間、NHK経営委員であったという“恥ずべき”過去の故である。一貫してメディアの頂点であり続けるこの巨大組織の最高意思決定機関との位置づけながらあまりにお粗末な会議の実態、しかも法外に高額の報酬がもちろん受信料から支払われている…どうやら総務省が女性・文系・大学教授という3点から私を拾い出し任命に至ったらしいのだが、こんな杜撰な人事がまかり通っているNHKの緩み切った体質こそ、まさかのモイ再任の可能性すらささやかれる元凶というほかない。

本当なら消してしまいたい経歴なのに、他の経営委員経験者が表立ってNHK批判を自粛？するからだろう、私は退任後、ことあるごとに元経営委員として発言を求められてきた。今回も3期9年在任された著名な女性にぜひお願いして！との望みかなわず、不本意ながら引き受けたのだ。現下の問題だらけの会長の再任を阻み、本来のあるべき報道機関にNHKを戻すためなら、あれほどのVIP待遇を受けた身の義務とさえ思っていたが…

NHK全国退職者有志が主催、およそ180人の参加者を前に、まず元経営委員会委員長代行の上村達男・早稲田大学教が基調報告。会長の適格要件のすべてから靱井氏が逸脱している点を逐一述べられたが、現実に政府から提示された？靱井氏を選任した当事者として、その判断理由と、就任後もジャーナリズム精神を欠いた暴言連発の人物を罷免に追い込めなかった事情など、参加者が本当に聞きたかったのはこうしたあたりではなかったろうか？

私を含めリレートークは4人。砂川浩慶・立教大学教授が会長候補の模擬試験(首実検)を実施しては？と提言され、深く同感。「放送レポート」編集長の岩崎貞明氏は、経営委員会設置の会長指名委員会の議事内容が非公開なのは解せないと衝かれたが、私にはさらに、同氏が、慰安婦問題に尽力、原発・東電追及のさなかに亡くなられたた日隅一雄氏とコラボされていた事実がうれしかった。フリー・ジャーナリストの意義を強調された上原公子・元国立市長による、お膝元の一橋大学一かの石原慎太郎の母校！一が本来は東大の対抗勢力として重要だったとの指摘は、あっ、そうだったのか、と新鮮な驚きだった。くわえて、私の本務校の音楽大学が立地した市の首長として、敢然と環境保全をめぐって業界に対抗、闘う姿勢を貫かれた女性と、こうした機会に同席できたことは実に大きな喜びであった。

私自身は、あくまで一視聴者・生活者として経営委員会に連なったことを前提に、NHK全体が潤沢な予算で保障されているからか、今に至るも切実な危機感がないこと、会長の任免・罷免権を握る唯一の機関である経営委員会の責任を改めて厳しく問うべきこと、そして全国多くの市民グループが進めている会長の推薦・公募制導入への署名運動の重要さも忘れてはならないと訴えた。既存権威とは無縁のさわやかな女性をぜひ新会長に！…最後は本音でお許し頂きたい。

石原経営委員長辞任要求メモ① 2019/11/5 小林緑(国立[くにたち]音楽大学・名誉教授)

◎そもそも前経営委員長であった上田氏が会長職に横滑りしたのは絶対におかしい！

1. 経営委員選出の不透明性⇒総務省から唐突に就任要請の電話
2. 「経営委委員会」ってなに？「番組審査委員会」と混同・誤解した…
実態は理事会の追認機関でしかない⇒希薄な存在理由を糊塗するために権威付け？
3. 会長にも経営委員にも、外部からの推薦制や公募制などが絶対必要では？
財界人偏重+受信料で財源確保⇒利益や視聴率度外視で公正な報道に注力すべし。
初の外部理事任命の際も、トヨタのカナダ在任役員の登用に反対したが…
4. アベ「おともだち人事」の弊害；文化畑からの起用も要注意！
愛トリ助成金撤回を決定した宮田亮平氏は経営委員にして芸大学長だった
長谷川三千子氏の3期目は？≠板野専務理事に抵抗した小林いずみ氏は一期のみ…
5. 放送メディアこそ、女性が重職になってもらいたいし、むしろより適材では？⇒
経営委員長の本音は「女性副会長といってもお飾りだから…」
6. 視聴者との意見交換の場—市井の人々の感覚を取り込める機会をもっと積極的に！
さまざまな団体・市民からの情報や批判は事前に各委員宛てに控室で配布されるも、
経営委での話題としては取り上げず、黙殺している事実には驚き、失望。
7. 退職金、高額な年俸、ハイヤーでの送迎、委員の退任／新任の際のパーティなど
贅沢な地方視察(2004以降は廃止)については、今やその記録が残っていない由
⇒経営委の服務規程第6条：退職後も職務上知りえた情報・機密を漏らしてはならぬ
8. 申し訳程度の議事録(発言者の記名なし)が一期目までの慣習
再任以降(2004)漸く委員会独自の事務局開設+議事録も記名入りとなったが…
9. 慰安婦問題(2006)で原告グループの会員として精一杯抗議するも、非力を反省⇒
関連の発言は委員長から事前に記録せずと通告され、議事録からは排除された
理事も経営委員も、慰安婦問題について関心薄く無知⇒こんなレベルでいいの？
10. 現日放労の体質=かんぼ問題ではしっかりと対応している？の真偽を知りたい。

参考資料：

- 前田健太郎：女性のいない民主主義（岩波新書 2019/9/20）
- 北村小夜：画家たちの戦争責任—教科書に書かれなかった戦争(梨の木社 2019/9/15)
- 吉良智子：女性画家たちの戦争（平凡社新書 2015/7/15）